プレスリリース

JATES（科学技術と経済の会）技術経営会議第93回夏の本会議
「デジタル変革時代のリーダーシップ」をテーマとして開催

2020年9月16日

一般社団法人 科学技術と経済の会(JATES)

一般社団法人科学技術と経済の会・技術経営会議（会長兼議長：遠藤信博（日本電気㈱会長））は、産業界が主体となって技術経営研究を進めています。この技術経営会議第93回夏の本会議が2020年9月13日（日）～9月14日（月）長野県北佐久郡軽井沢町およびWeb参加方式で開催され、昨年を越える約240名の業種を超えたCTOおよびその補佐クラス、官界、学界からのメンバー他が参加しました(注)。

昨年は「デジタル変革時代における人間中心の価値創造」が統一テーマでしたが、デジタル時代においては情報は一瞬にして時間空間を越えて伝達される。これまでのような上の階層ほど多くの情報を握り、それがパワーともなるハイアラキーが消滅していくであろう。そのような時代における『リーダーシップ』はいかにあるべきか、が統一テーマとなって、多くの有識者を交えて活発な議論が行われました 。

I. 本会議のポイント

デジタル時代は、データや情報は瞬時に世界中に伝わっていく。トップの発信は役員であろうと末端の職員であろうと平等に同時に伝わるし、逆に彼ら彼女らから発信することも可能である。多くの国で政権のトップにある人がツィッターを通じてその思っていることを発信しており、それを70億の地球人はフォローすることができる。

この時代においては、人格や識見、持っている技能や技術によりリーダーシップが発揮されることになるが、特に大切なことは率いる組織・グループに対して方向性を与えるミッションの提示、そしてそのミッションを率先して実行していくパッションではないだろうか。そして、その実行に当たっては周囲の人たちをリラックスさせ安心させるエレガンスをもつこと、が求められる。

II. 新役員の選任

4年間議長を務められた遠藤信博議長が退任され、今期から以下の体制で技術経営会議が運営されることとなりました。就任した斎藤保氏は第8代の議長となります。

旧役員			**新役員（2020年～2022年）**		
議長	遠藤　信博	日本電気㈱取締役会長	**議長**	**斎藤　保**	**㈱IHI 相談役**
副議長	澁谷　直樹	日本電信電話㈱代表取締役副社長	**副議長**	**福田　孝晴**	**鹿島建設㈱常務執行役員技術研究所長**
副議長	福田　孝晴	鹿島建設㈱常務執行役員技術研究所長	**副議長**	**菅原　英宗**	**NTTコミュニケーションズ㈱代表取締役副社長**

（注）講師およびラウンドテーブルの詳細は次頁以降をご参照ください。

Ⅱ.　行われた講演・議論の概要

Ⅱ－1　講演とディスカッション

①（CSTI議員　上山隆大氏：ポストコロナ時代における「科学技術・イノベーション基本計画」について）
2021年度から始まる第6期科学技術基本計画の原案とデジタル変革との関係について講演された。
なお、スケジュールの関係で本テーマに関するラウンドテーブルは後日（9月24日）開催される。

②（JSR㈱会長　小柴満信氏：真のデジタル革命を勝ち抜く）
今回のパンデミックを機に長期的には世界のパワーシフトの流れが見えてきたが、中期的には各国の金融財政出動による債務や余剰流動性をいかに吸収すべきかとの課題を負った。過去には戦争がその解決手段となったが、平和的に吸収する方法は生産性を上げることしかない。今日われわれは、DXといわれるデジタル変革を通じた資本生産性より優れるビット生産性による生産性向上のツールを手にしている。その先進事例を学び実践することが社会的な課題ともなってきた。この問題意識で企業のDQX(Digital and Quantum Transformation)について講演が行われた。

③（京都大学総長　山極寿一氏：コミュニケーションの進化とコロナ後の社会）
数100万年に及ぶ人類の進化の過程でコミュニケーションも大きく変容を遂げた。言語だけでなく、いわゆる3密も人間が社会生活を送るうえで不可欠であることがわかった。コロナ後においても、文化やアートがコミュニケーションの中核に据えられなければならない。

④（㈱IHI　相談役　斎藤　保氏：『ものづくり』のイノベーションとデジタル変革）
「ものづくり」のイノベーションは，プロセス・プロダクトイノベーションからビジネスモデルイノベーションへと変化していく。その中で，デジタル変革を活かして，内部と外部の知識を「つなぐ」ことがイノベーション実現には大切である。必要なリーダーシップは，組織としてのダイナミックケイパビリティの実現，多様性を確保するマネジメント，お客さまのペインを理解しその心にアピールすること，そして，イノベーションを目指す勇気をもつことではないだろうか。

⑤（三菱電機㈱役員技監　杉浦博明氏：デジタル変革による新サービス創造専門委員会報告）
本年のCOVID-19で、図らずも我が国のデジタル変革遅れが露呈した。リモートワークや教育などでデジタル化は進展したが、旧来からの慣習に基づく「非デジタルな非効率」は残存している。一方、日本発のデジタル新サービスは大企業からは殆ど生まれていない。2年間に及ぶ多くの委員会活動を通じメンバーにより導出された、企業ミッションの再定義、NEO出島戦略の実践、イノベーションのためのサロンの利活用、の3項目を産業界への処方箋として示した。

⑥（日本電信電話㈱副社長　澁谷直樹氏：日本の宇宙分野での競争力強化について考える専門委員会報告）
宇宙におけるわが国の競争力を高めるために委員会活動を2年間進めてきた。宇宙をテーマにチャレンジの大切さを学んだ。これまで官主導で進められてきた日本の宇宙開発は、これからは民間主導が取り入れられて、災害対策・国土強靭化や地球規模課題の解決への貢献を果たし、経済成長とイノベーションの実現の一翼を担うべきである。

⑦（東京大学工学研究科教授　森川博之氏：データ・ドリブン・エコノミーとスマートソサイティ）
国内外でこれまで多くのスマートシティのプロジェクトが進められてきたが、マネタイズや持続性などの点で問題を抱えている。人間を原点に据えて、社会貢献（ゼブラ企業）、技術一辺倒でない多様性、利他と共感の発想、働き方改革（CX）などを取り入れて進めることを提案したい。

⑧（WHO 進藤奈邦子氏：WHOから見るCOVID-19）
世界的に見て日本のCOVID-19対応はうまくいっており、感染者数、死者数ともに非常に低い。日本から唱えられた「3密」は「3C」として世界に広まりつつある。しかし近年、パンデミックは5～10年の周期で発生しており、一方でグローバルな人の行き来はすさまじい勢いで拡大している。将来にわたって備えが必要である。

⑨（（独）酒類総合研究所理事長　後藤奈美氏、部門長　岩下和裕氏：日本の酒づくり～これまでとこれから）
日本酒は高級化と多様化が進みつつ、輸出は増え海外進出が進展している。ともなって、貯蔵劣化臭（老香・DMTS）が出にくい清酒の醸造法、料理とのペアリング、地域特性の探求などの分野でも科学的な解明が進み、製品と市場の新たな展開に期待がかかっている。

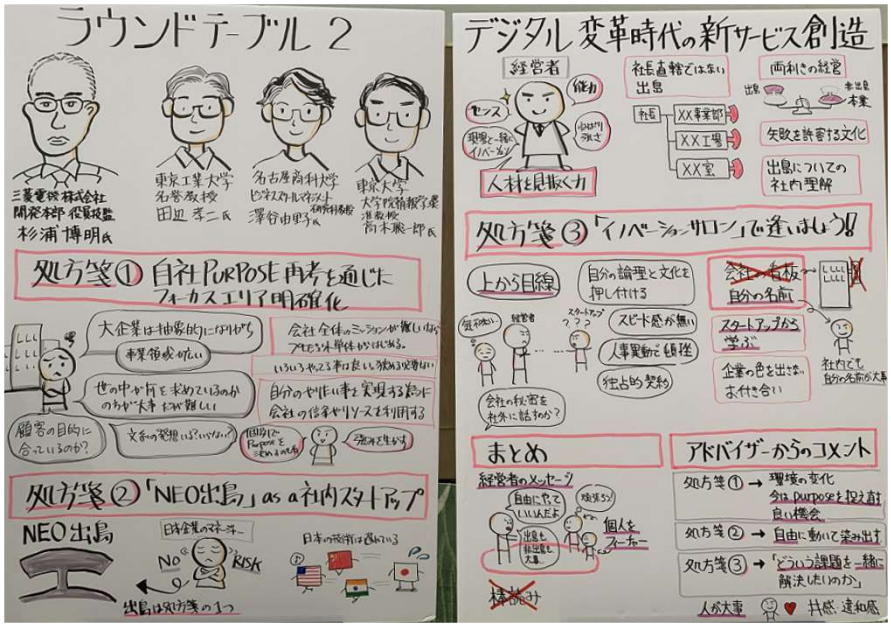
⑩（LVMHｳｫｯﾁ・ｼﾞｭｴﾘｰ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ㈱ｼｮｰﾒDiv.取締役 ｼﾞｪﾈﾗﾙﾏﾈｰｼﾞｬｰ　蒲谷直子氏：エレガンスとリーダーシップ）
エレガンスとは相手をリラックスさせ、安心感を生む雰囲気つくりで相手に対する敬意を示すことでもある。このことはリーダーシップに通ずる。対照的なリーダーシップが強制力や組織の理論で動くことで、こちらは画一的、同調的でパワハラに陥りやすい。デジタル変革の時代には、エレガンスがリーダーシップにますます求められる素養となっていく。

挨拶する前議長の遠藤信博氏

挨拶する新議長の斎藤保氏

講演されるCSTI議員上山隆大教授

ジュネーブからWeb講演されたWHO進藤奈邦子氏



グラフィックレコーディング（ラウンドテーブルNo.2）

ラウンドテーブル風景（RT No.3）

Ⅱ-2. ラウンドテーブルの構成

ラウンドテーブルは5卓設けられ、「デジタル変革時代のリーダーシップ」についてさまざまな切り口から討議が行われました。 それぞれにおけるテーマ、モデレータ（司会者）、プレゼンタ（発表者）、アドバイザ、討議の内容は下表の通りです。

R.T	RT1	RT2	RT3	RT4	RT5
テーマ	『ものづくり』のイノベーションとデジタル変革	デジタル変革時代の新サービス創造	宇宙分野での競争力強化	日本版スマートソサエティ（シティ）	ダイバーシティ志向リーダーシップ
モデレータ	西田　直人氏（㈱東芝特別嘱託(元　執行役専務)）	杉浦　博明氏（三菱電機㈱　開発本部　役員技監）	竹内　規晃氏（東日本電信電話㈱　経営企画部　中期経営戦略推進室　室長）	福田　孝晴氏（鹿島建設㈱　常務執行役員技術研究所長）	池澤　克哉氏（横河電機㈱　IA プロダクト&サービス事業本部　副本部長）
プレゼンタ	斎藤　保氏（㈱IHI 相談役）	同上	澁谷直樹氏（日本電信電話㈱　副社長）	森川博之氏（東京大学教授）	後藤　奈美氏（(独法)酒類総合研究所 理事長）
アドバイザ	五道　仁実氏（内閣官房 国土強靱化推進室次長）	田辺　孝二氏（東京工業大学　名誉教授）	松尾　剛彦氏（内閣府宇宙開発戦略推進事務局長）	榊　真一氏（国土交通省 都市局長）	関口　和一氏（㈱MM総研　代表取締役所長）
	渡辺　その子氏（内閣官房 内閣審議官 健康・医療戦略室 次長）	高木　聡一郎氏（東京大学　大学院情報学環　准教授〔Webリモート参加〕）	石田 真康氏（(一社)SPACETIDE　代表理事兼CEO／A.T.カーニー㈱　プリンシパル〔Web〕）	栗野　盛光氏（慶應義塾大学 経済学部教授）	蒲谷　直子氏（LVMHｳｵｯﾁｼﾞｭｴﾘｰ　ｼﾞｬﾊﾟﾝ㈱　ｼｮｰﾒﾃﾞｨｳﾞｨｼﾞｮﾝ取締役　ｼﾞｪﾈﾗﾙ・ﾏﾈｰｼﾞｬｰ）
	萩原　崇弘氏（経済産業省 大臣官房審議官(産業技術環境局担当)）	澤谷　由里子氏（名古屋商科大学　ビジネススクールマネジメント研究科教授）	岩本　裕之氏（JAXA新事業促進部長）	吉田　力　氏（日本経済新聞社 編集局企業報道部次長）	岩下　和裕氏（(独法)酒類総合研究所　成分解析研究部門　部門長）
	軽部　大氏（一橋大学イノベーション研究センター　教授）		鈴木　一人氏（北海道大学大学院公共政策大学院　教授〔Web〕）		
			廣瀬　史子氏（JAXA研究開発部門第一研究ユニット）		
概要	「ものづくり」におけるこれまでのイノベーションと、「新しいカタチ」の実現に必要な企業としてのダイナミックケイパビリティと、どのようなデジタル変革が期待されるかについて議論が行われた。	COVID-19は世界的にデジタル変革を加速させた。2年間にわたり20回の委員会を通じて議論した「デジタル変革による新サービス創造専門委員会」のまとめに加え、わが国として目指すべきデジタル時代のサービスイノベーションについて議論を行い、提言が検討された。	本年策定された政府の新「宇宙基本計画」では宇宙開発をめぐる最近の世界パラダイム転換が盛り込まれている。これを受けてわが国が目指すべき宇宙分野での役割、研究開発や事業化推進策について議論を行い、産業界へ向けた提言が検討された。	ポストCOVID-19を見据えたスマートシティへの関心が高まっている。自治体や企業による実証実験にとどまっているスマートシティの現状を踏まえ、Society 5.0を見据えた人間中心の持続可能なスマートソサエティ（シティ）のモデルを模索する議論が行われた。	イノベーション推進のためには種々のダイバーシティが必須であると数年来強調されている。現在のその状況を振り返り、改めてデジタル変革時代におけるダイバーシティリーダーシップについて議論がなされた。
参加人数	18名+Web19名=37名	27名+Web30名=57名	23名+Web12名=35名	25名+Web25名=50名	21名+Web12名=33名

III. 技術経営会議第93回夏の本会議のプログラム

日程	内　容	ラウンドテーブル
1日目（9月13日）	◇技術経営会議審議（昼食含む） ・本会議審議（会員代表者のみ参加）　・臨時運営委員会審議（次期運営委員による）	
	■開会挨拶及び審議結果報告 技術経営会議 旧・新議長挨拶：遠藤議長から斎藤議長へ交代	
	■特別講演1 演題：「ポストコロナ時代における「科学技術・イノベーション基本計画」について」 講師：上山　隆大　氏　　CSTI議員・政策研究大学院大学客員教授	RTは別途(9/24)
	■特別講演2 演題：「真のデジタル革命を勝ち抜く」 講師：小柴 満信氏　JSR㈱　取締役会長	
	■特別講演3 演題：「コミュニケーションの進化とコロナ後の社会」 講師：山極　寿一氏　京都大学　総長	
	■専門委員会報告1 「デジタル変革による新サービス創造専門委員会」 委員長：杉浦博明氏 三菱電機㈱役員技監	RT2
	■専門委員会報告2 「日本の宇宙分野での競争力強化について考える専門委員会」 委員長：澁谷直樹氏　日本電信電話㈱代表取締役副社長	RT3
	■ラウンドテーブル講演1 演題：「データ・ドリブン・エコノミィとスマートソサエティ」 講師：森川　博之氏　東京大学大学院　工学系研究科　教授	RT4
	■ラウンドテーブル講演2 演題：「日本の酒造り～これまでとこれから」 講師：後藤　奈美氏　(独法)酒類総合研究所 理事長 岩下　和裕氏　　同　　成分解析研究部門　部門長	RT5
	■特別講演4　(Web講演) 演題：「WHOから見るCOVID-19」 講師：進藤 奈邦子氏　　WHO（世界保健機関）感染症危機管理　シニアアドバイザー	
2日目（9月14日）	■特別講演5 演題：「社会・産業基盤を支える『ものづくり』のイノベーションとデジタル変革」 講師：斎藤　保　氏　㈱IHI 相談役	RT1
	■特別セッション　ラウンドテーブル討論 テーブル①　～　テーブル⑤　(別紙のとおり)	
	■特別講演6 演題：「エレガンスとリーダーシップ」 講師：蒲谷　直子氏　LVMHウォッチ・ジュエリー・ジャパン㈱ ショーメDiv.取締役GM	(RT5)
	■ラウンドテーブル報告　　グラフィックレコーダー展示・見学	
	■総括　　総括：遠藤 信博 会長（30分）	
特別セッション	■トワイライト講演会 「経営者のプレゼンス～エグゼクティブの見せ方～」　　渡邉　華織氏（元㈱ぐるなび）	

IV.　一般社団法人科学技術と経済の会(JATES)技術経営会議について

設立の趣旨

技術経営会議は1974年（昭和49年）10月に設立され、今年で46年目を迎える。産業界における技術・経営諸問題の分析・解明、リーダーの育成、トップ層の相互交流と情報交換を行うべく、情報収集、意見交換、調査・研究ならびに広報・発信・提言などの活動を行っている。ディジタル化、グローバル化への対応、国際連携、地球規模のサステナブル経営などを取り上げ、最近では健康長寿社会や働き方改革、データ利活用なども対象として、異業種や異分野の連携・交流のもとで取り組みを進めている。

構成と運営

技術経営会議は、会員の主体的な活動・運営を基本とする。役員は、会員企業から選出された、議長、副議長、会計監査役、常任委員、運営委員で、この「運営委員会」の基本方針に基づいて活動が進められる。

「運営委員会」は年4回開催され、運営方針や活動計画、予算などが審議される。それらは年2回開催される「本会議」（各会員企業の代表者により構成）において決定される。現在、参加企業は54社（2020年9月現在）。

●役員紹介（2020年9月）

議　　長	斎藤　保　氏	株式会社IHI 相談役
副 議 長	福田　孝晴　氏	鹿島建設株式会社常務執行役員技術研究所長
副 議 長	菅原　英宗　氏	NTTコミュニケーションズ株式会社代表取締役副社長

【参考】「技術経営会議夏の本会議」最近の開催実績と統一テーマ
2019年9月　第91回：「デジタル変革時代の人間中心の価値創造」
2018年9月　第89回：「AI/IoT/ビッグデータの社会実装」
2017年9月　第87回：「未来の産業創造と社会変革～ AI/IoT/ビッグデータ時代への対応」

一般社団法人科学技術と経済の会(JATES)の活動【抜粋】

技術経営会議
- 本会議／定例会／イノベーションシンポジウム
- 運営委員会
- 「技術経営・イノベーション大賞」表彰制度運営（内閣総理大臣賞他）
- 「デジタル変革による新サービス創造」専門委員会
- 「日本の宇宙分野での競争力強化について考える」　専門委員会
- 「日本版スマートソサエティ（シティ）を考える」専門委員会

本リリースに関する問い合わせ先

一般社団法人科学技術と経済の会(JATES)
〒東京都千代田区飯田橋3-3-1
担当：常務理事　太田
技術経営会議　大内、鈴木、竹内、森田
Tel:03-3263-5501
Fax:03-3263-5504
Eメール：gikeikai@jates.or.jp